

ア ウ ト リ ー チ

通信



第 34 号

2019 年 9 月 20 日 発行
年 2 回 発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

七夕コンサート

子どものための
コンサート・シリーズ

「子どものための七夕コンサート 星空の音色〜天の川の旅〜」（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十三回）を七月六日（土）、本学講堂にて開催しました（第一部十一時開演、第二部十五時開演、来場者数・第一部四八三名、第二部一六三名、計六四六名）。

出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生を中心に、声楽・安川陽菜、山下優子、ピアノ／



オルガン・小川瑞葵、竹ヶ鼻智絵、ピアノ／チェレスタ・井本斐、フルート・磯貝瑛里、クラリネット・反田沙耶、コントラバス・岩崎朱夏、ヴァイオリン・藤井立空の九名が力を合わせました。

今回は、七夕の世界に迷い込んだ妖精のパックというキャラクターを軸に、プロジェクタや効果音も使ったストーリー仕立てのコンサート

サートにしました。

挨拶の後、メンデルスゾーン作曲《真夏の夜の夢》より（序曲）をピアノ連弾で演奏し、その後パックがパントマイムをしながら登場すると、ナレーターがパック



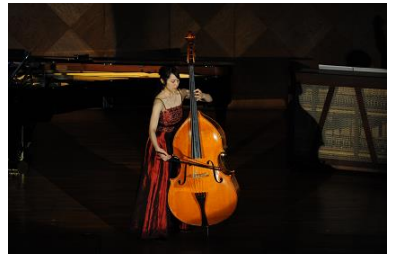
を紹介して物語が始まります。パックが楽しそうに飛び跳ねるのに誘われて、ムソルグスキー作曲の組曲《展覧会の絵》より第五曲（殻

をつけた雛鳥のバレエ）を演奏しました（ピアノ独奏）。

次に、花の妖精たちが七夕のお祝いに登場して、ドリーブ作曲のオペラ《ラクメ》より（花の二重唱）を歌いました（ソプラノ二重唱、ピアノ）。歌の二人は花冠をつけて、この曲の劇中の雰囲気についても短く紹介しました。

歌が終わるとパックが再び登場し、魔法で花を飾ろうとしますが、間違って雨を降らせてしまいます。その様子をプロジェクタや効果音を使って演出した後、レスピーギ作曲（霧）で重くどんよりとした雰囲気を表現しました（ソプラノ独唱、ピアノ）。さら





に、クライ
スラー作
曲〈愛の悲
しみ〉をコ
ントラバ
スとピア
ノで演奏
し、織姫と
彦星の揺

れ動く気持ちを表現しました。
コントラバスが舞台に出てくる
と、その大きさに驚いた子ども
たちから声が上がりました。

次に、雨が上がって星空が見
えてくる様子をプロジェクター
で映し出しました。ここで〈き
らきら星〉を会場の皆様と一緒
に歌って、曲の後半では各種の
楽器も演奏に加わりました。

再びパックが登場し、星に扮
した演奏者たちに尋ねる形で
の楽器紹介コーナーです。各楽器
の特徴を分かりやすく説明した
後、ワン・フリーズを演奏して

もらいま
した。その
後、パック
も合奏に
加わって
モーツァ
ルト作曲
〈きらき
ら星変奏



曲〉を演奏し（ピアノ、チェレ
スタ、フルート、クラリネット、
コントラバス、ヴァイオリン）、
変奏曲についてもお話しました。
次は、チェレスタとピアノの
紹介です。チェレスタの時には、



鍵盤が客
席から見
えるよう、
楽器を舞
台スタッ
フに回し
てもらい
ました。ピ

アノは、雰囲気が全く異なる曲

のワン・フリーズを弾き比べて、
表現力の幅広さを感じてもらい
ました。この二つの鍵盤楽器の
特徴と違いを知ってもらった上
で、チャイコフスキー作曲の組
曲〈くるみ割り人形〉より〈金
平糖の精の踊り〉を演奏しまし
た（ピアノ、チェレスタ）。

続いて、ホルスト作曲の組曲
《惑星》より〈木星〉をアンサ
ンブル（ピアノ連弾、フルート、
クラリネット、コントラバス、
トーンチャイム）で披露し、そ
の後、パックと演奏者との会話
で物語を進めました。

ここで、織姫がプロジェクタ
ーで登場しました。お父さんで
ある天の神様が結婚を許してく
れず、悲しむ織姫を音楽の力で
元気づけようと客席に呼び掛け
て、会場の皆さんとアクティビ
ティを行いました。内容は、「ベ
ガ」と「アルタイル」という二
種のリズムのアンサンブルです。

まずは織姫の星とされる琴座の
「ベガ」と彦星の星である鷲座
の「アルタイル」を紹介し、続
いて、それらを読み込んだオリ
ジナルのリズムを手で叩いて、
会場の皆さんにも参加してもら
いました。何度か繰り返すうち
に、会場全体のリズムが揃って
いきました。それぞれを練習し

た後、会場を二つに分けて両方
のリズムを組み合わせて楽しみ
ました。最後に、前もってプロ
グラムに星のシールが貼ってあ
った子どもたちを舞台上呼び上
げて、トー

ンチャイ
ムを鳴ら
してもら
いました。
思いがけ
ない展開
に、子ども
たちは最
初、戸惑っていた様子でしたが、



次第に慣れていったようでした。



子ども
たちのア
クティビ
ティに励
まされて
勇気を得
た織姫が
お父さん
に結婚の

許しを求める歌として、プッチ
ーニ作曲オペラ《ジャンニ・ス
キッキ》より「わたしのお父さ
ん」を歌いました（ソプラノ独
唱、ピアノ）。

こうして、ついに二人の結婚
が決まり、演奏者全員でメンデ
ルスゾーン作曲の劇付随音楽
《真夏の夜の夢》より（結婚行
進曲）を演奏して（オルガン、
フルート、クラリネット、コン
トラバス、ヴァイオリン、声楽）、
物語は幕を閉じました。

最後に、会場の皆様と中川ひ

ろたか作曲（にじ）と下総皖一
作曲「たなばたさま」を歌って
コンサートを締めくくりました。

今回のコンサートでは、星空
のように多彩な音色を楽しんで
もらいたいという思いから、副
題を「星空の音色／天の川の旅
／」とし、器楽専攻のメンバー
が多いため、それぞれの楽器の
音色を生かしつつ、物語も楽し
んでもらえるよう工夫しました。
終演後にはオルガン、ウイン
ドチャイム／トーンチャイム、



フルート、
コントラ
バス、ヴァ
イオリン
の楽器材
験コーナ
ーを設け、
たくさん
の子ども
たちに参加してもらったことがで
きました。

また、今回「子どものための
コンサート」シリーズ来場者数
三万人突破を記念して、子ども
たちにオリジナルのうちわをプ
レゼントしました。

（藤井立空・記）



学外アウトリーチ

西宮市立門戸幼稚園

六月十二日（水）十時十五分

から、西宮市立門戸幼稚園（西宮市門戸東町三二二十五、園長・阿部久美先生）で園児対象の「あじさいコンサート」で音楽を感じよう（四十五分）を行いました。（ピアノ・小川瑞葵、竹ヶ鼻智絵、声楽・別所香穂、松井偉乃里、フルート・磯貝瑛里、ヴァイオリン・藤井立空）。



副題の「体で音楽を感じる」をテーマに、音楽に合わせて体を動かすアクティビティを考え、曲目毎に意識して使ってほしい体のパ

ーツ（耳、手など）をパネルにして伝えるという工夫をしました。耳馴染みのある曲や季節にちなんだ曲も取り入れて、園児に楽しんでもらえるプログラムを組みました。実際に歌ってもらった曲のメロディによる変奏曲を続けて演奏したり、演奏を聴いてもらった曲をアクティビティに繋がったりなど、音楽の多様性を感じてもらえるようコンサートを進めました。

園児の歓声に迎えられ、温かい雰囲気で開催しました。まず、モーツァルト作曲のオペラ《フィガロの結婚》より〈序曲〉をスクリーンで演奏したところ、聞き馴染みのない響きをおもしろがって夢中で聴いてくれました。



同じく〈喧嘩の二重唱〉と、ピアノでショパン作曲〈子犬のワルツ〉を演奏した後、フランス民謡〈きらきら星〉を子どもたちと一緒に歌いました。続いて、フルートでモーツァルト作曲〈きら



きら星変奏曲〉を吹いて、変奏曲を楽しんでもらいました。次に、ヴァイオリンでブラームス作曲《ハンガリー舞曲》第五番を演奏してから、この曲を使ったアクティビティを行いました。演奏を聴いて早くもアクティビティの意図（速くなったり遅くなったり）を察知した園児もいました。皆、積極的に参加してくれて、大盛況の場面として印象に残っています。ドイ

ツ民謡〈かえるの合唱〉と一緒に歌い、オッフェンバック作曲のオペレッタ《天国と地獄》より〈地獄のギャロップ〉を器楽合奏で、ロベス作曲の映画《アナと雪の女王》より《レット・ゴ

ット・ゴ》を全員で演奏し、最後に中山晋平作曲〈あめふり〉と中川ひろたか作曲〈にじ〉

と一緒に歌って終演しました。

園児たちの素直な反応を間近に感じながら演奏したことで、音楽を通したコミュニケーションこそが音楽の醍醐味の一つだと実感できて、かけがえのない経験になりました。

（松井偉乃里・記）



昨年度の学外アウトリーチ

雲雀丘学園小学校

十二月十四日（金）、雲雀丘学園小学校（宝塚市雲雀丘四―二―一、音楽教諭・山本雅子先生、岡村圭一郎先生）で四年生四クラスを対象とした実習（各四十分）を行いました（ピアノ・向井千沙都、齊藤明日香、声楽・草野舞、山下優子）。

「オペラって何だろう？」をテーマに、モーツァルトの作品を取り上げ、アクティビティではオペラの一場面のミニ体験をしてみようプログラムを考えました。

最初は、オペラ《フィガロの結婚》よ



り《序曲》をピアノ連弾で、続いて《嫌味の二重唱》を演奏しました。今回



はすべてイタリア語で歌い、フレーズ毎に日本語訳をディスプレイに映し出し、衣装や演技も加えて、児童たちにより深く伝えました。

次は、ピアノ独奏で《トルコ行進曲》。オペラ《フィガロの結婚》より《恋とはどんなものかしら》ではケルビーノに加え、伯爵夫人も登場させて、臨場感を味わってもらいました。ここで、同オペラより《もう飛ぶまいぞ、この蝶々》を岡村先生に独唱して頂き、児童たちは先生の歌う姿に興味津々でした。アクティビティは「みんな

オペラに挑戦♪」と題し、オペラ《魔笛》より《魔法の鈴》に挑戦してもらいました。場面を説明して、自由に振付けをしてから真似をして動くことで、オペラは歌と演技によって生き生きとドラマが動き出すというこ

とを体感してもらえたと思います。児童たちに「もっとやりたい」と言われてうれしかったので、もう少し長めにアクティビティの時間を確保できたらよかったと思います。

同オペラより《パパパの二重唱》では、再び岡村先生が助演してくださいました。この曲は

以前授業で扱われたということで、夢中で先生の動きを真似するなど、児童たちも大変うれし



そうでした。次はモーツァルトの名曲メドレーに歌詞を乗せた三重唱《モーツァルトの百面相》でしたが、アクティビティからの切り替えがうまくいかず、割愛したクラスもありました。



最後は、クリスマス・メドレーで《ジングルベル》きよしこの夜、赤鼻のトナカイ》を皆で歌いました。元気な歌声と鈴の音が教室中に響きました。

オペラというテーマを通して、プログラム構成の重要性やクラス毎の違いや時間配分、安定した演奏のむずかしさを学んで、意義深い実習となりました。

（齊藤明日香・記）

兵庫県立東はりま特別支援学校

三月一日（金）十三時から、兵庫県立東はりま特別支援学校（兵庫県加古郡播磨町北古田一丁目十七番十七号、音楽教諭・神田幹子先生）体育館にて高等部三年生を対象に「春のおとずれコンサート」（五十分）を行いました。（声楽・草野舞、山下優子、ピアノ・向井千沙都、齊藤明日香）。

「春のおとずれを感じ、温かい気持ちで音楽を楽しんでもらう」というねらいのもと、二部構成でプログラムを考えました。

第一部では、小春のおとずれを喜んでいる小鳥のお話とともに、春をイメージさせる作品をお送りしました。ヨハン・シュトラウス二世作曲〈春の声〉をソプラノ独唱で、小鳥の鳴き声が表現されたグリーグ作曲〈小鳥〉をピアノ独奏で演奏し、モーツァルト作曲のオペラ《フィガロの結婚》より〈手紙の二重唱〉を、小鳥に向けて手紙を書いているという演出で演奏しました。その後、シューマン《リスト作曲〈春の夜〉をピアノ独奏で、草野次郎作曲〈浅き春に寄せて〉をソプラノ独唱で演奏しました。



生徒たちは静かに集中して聴いてくれている様子でした。続いて、ブラームス作曲《ハングリー舞曲 第五番》をピアノ



連弾で演奏しました。私たちのうちの一人が指揮をし、生徒の皆さんには手拍子で参加してもらいました。緩急が頻繁に変わる部分では、「速い！」などと声もあがり、楽しんで参加してくれていたようでした。

第二部では、名曲として広く親しまれている作品を中心にお送りしました。まず、ロッシーニ作曲

《猫の二重唱》を、その後、ピアノ独奏でリスト作曲
《愛の夢》、ソプラノ独唱でプッチーニ作曲のオペラ《ラ・ボエーム》より《私が街を歩くとき》、同じくソプラノ独唱でモーツァルト作曲のオペラ《魔笛》より《夜の女王のアリア》を演奏しまし



た。

最後に、生徒の皆さんと一緒に《世界に一つだけの花》と東はりま特別支援学校の校歌を歌いました。皆、とても元気に歌ってくれました。演奏会後には、短い時間ではありますが、生徒の皆さんと交流をさせて頂き、音楽を通して人と繋がることのできる喜びを改めて感じました。



（向井千沙都・記）



刀根山病院

三月六日（水）独立行政法人
国立病院機構刀根山病院※（豊中
市刀根山五丁目一番一号）一階
プレイルームで、「春のおとずれ
コンサート」春の息吹を音楽に
のせて」（六十分）を行いました
た（声楽・草野舞、山下優子、
ピアノ・向井千沙都、齊藤明日
香、マリンバ・山下すみれ）。

今回は、「春と愛」をテーマに、
春を感じられる曲や様々な愛の
曲を選曲しました。

初めに、チャイコフスキー作
曲のバレエ音楽《くるみ割り人
形》より《花の
ワルツ》をピア
ノ連弾で、次に
ヘンデル作曲
のオペラ《リナ
ルド》より《私
を泣かせてく
ださい》をソプラノ独唱で、続



いてバッハ作曲《無伴奏チェロ
組曲》第一番
より《プレリ
ュード》を暖
かな音色の
マリンバ独
奏でお送り
しました。



次にリスト作曲《愛の夢》を
華やかなピアノ独奏で演奏し、
モーツァルト作曲《フィガロの
結婚》より伯爵夫人と召使スザ
ンナの《手紙の二重唱》では、
デュエットならではの掛け合い
やハーモニーをお届けしました。
久石譲作曲《スタンド・アロー
ン》をソプラノ独唱で、ブラー
ムス作曲《ハンガリー舞曲》第
五番をピアノ連弾で演奏し、オ
ーケストラとはまた違った雰
囲気を味わって頂きました。

や身体の一
部を叩くり
ズム体操を
しました。
真剣な表情
で取り組ん
で下さる方
や、歌いな
がら楽しそうにされている方な
ど様々でした。

その後、エンニオ・モリコー
ネ作曲の映画音楽《海の上のピ
アニスト》より《愛を奏でて》
をピアノ独奏で、ハチャトリア
ン作曲のバレエ音楽《ガイーヌ》
より《剣の舞》をマリンバ独奏
で迫力一杯に演奏しました。

ヴェルディ作曲のオペラ《椿
姫》より《ああ、そはかのひと
かゝ花から花へ》と、春の歌
として中田章作曲《早春賦》を
ソプラノ独唱で、また滝廉太郎
作曲《花》を二重唱でお送りし
ました。最後に、春メドレーと



して《春が来た》さくらさくら
《春の小川》を会場の皆さんと
一緒に歌いました。

アンコールの岡野貞一作曲《ふ
るさと》



では、会
場の皆さ
んも歌っ
てくださ
って、会
場が一体
となった
ように感
じました。終演後に、「病院内で
春を感じることができた」「毎回
楽しみにしている」といった温
かい声を頂いて、とてもうれし
く思います。本当にありがとうございました。

（山下優子・記）

※今年度より独立行政法人国立病院機構 大阪
刀根山医療センターと名称変更になりました。

卒業生の活動

「結成三周年を迎えて」

～恋は三年～

アウトリーチ十四期生
アンサンブルくれよん

樋口成香

二〇一九年三月に「アンサンブルくれよん」は結成三周年を迎えました（フルート・田中佑奈、オーボエ、イングリッシュホルン・樋口成香、ピアノ・丹野桃子、和田悠加、四人ともアウトリーチ第十四期生）。そこで自主公演の三周年記念コンサートを三月三十一日（日）に西宮市甲東ホールで開催しました（十時開演、六十分公演）。ここでは、（一）



のクリスマス・コンサート」の影響、（二）三周年コンサート開催にあたっての工夫点、（三）今後の歩み、の三点についてお話しします。

（一）まずはクリスマス・コンサートを経ての影響です。ここでチラシを配布した影響は大きく、お見送りの際に「三月のコンサートも行きます」と言ってくださる方もありました。申し込み時に、「十二月のがよかったので今回も楽しみです」とコメント付きでメールをくださる方が多かったです。クリスマスに出演していなければ出会えなかったお客様にたくさん出会えたと実感しています。

（二）三周年コンサートでは、「絵本を読むだけではなく、絵も映していたらもっと子どもたちを惹きつけられた」というクリスマス・コンサートのお客様

の声を踏まえ、プロジェクターを使用しました。今回は『眠れる森の美女』の絵（樋口成香制作）を映す

ことで、子どもたちに音楽とお話を



を楽しんでもらいました。前半は「踊り」をテーマに、シヨパン〈小犬のワルツ〉（ピアノ独奏）やビゼー〈カルメン〉より〈ハバネラ〉（オーボエ独奏）、ピアソラ〈リベルタンゴ〉（フルート独奏）、オッフェンバック〈天国と地獄〉より〈序曲〉（ピアノ・鍵盤ハーモニカ・フルート・オーボエ）などを演奏し、後半はチャイコフスキーの組曲『眠れる森の美女』（中條はるる編曲）をお話と絵と組み合わせ、長めの組曲も聴いてもらえるよう工夫しました。飽

きさせないよう、全五曲の真ん中の第三曲〈長靴をはいた猫と白い猫〉では客席近くの扉から登場するなど、演出しました。

会場の皆さんと一緒に歌を歌ったり、呪文を唱える振り付けを考えたりするアクティビティも取り入れました。振り付けは、



プログラムにシールがついていた子ども数名に決めてもらいました。子どもたちにその場で考えてもらうのではなく、予め用意していた振り付け五種の中から選んでもらい、それを会場全員で行いました。従来はこちらで決めていた振りを皆さんと行う形だったので、今回はどうなることか、初めての試みで不安でしたが、会場の一体感を高め

ることができたと感じています。当日券も用意し、百十八名（子ども四十一名、大人七十七名）のお客様をお迎えして、盛況のうちに終えることができました。

開催に当たって一番心配だったのは集客でした。「子どものための」コンサートということ、まだ周りに子どもがいる人が少ない私たちには、どうすれば子どもたちに来てもらえるかを考える必要がありました。初めてのことです。手探りの中、紙面やネットで掲載してもらえるところに連絡を取ったり、西宮市の幼稚園や小学校に招待状を送ったり、少しでも知ってもらえるよう広報しました。見知らぬの団体からの招待状を受



け取ってもなかなか足を運んでもらうには至りませんでした。が、ネットで知ったというお客様は多く、ネット検索が主流という実態が見えました。

（三）今後の歩みについて、自主公演を行ったことで、これまで見えていなかったことが浮き彫りになりました。四人いれば、それぞれ進め方や考え方が違います。各メンバーの事務能力やキャパシティの違いがある中、資料作成や金銭管理、スケジュール管理などを誰が担当するか、誰が渉外や広報を担当するか、どのように取り組んでいくかを再度話し合う必要が出てきました。「恋は三年」という言葉があるように、三年も経つと色々起こります。従来はひたすら前を向いて、熱々のうちにという思いで突っ走ってきました。しかし五年、十年と続けていくためには、メンバー各人の環境

が変わっていく中で、どのように継続していくかを考える時期にきたと感じ



ています。「一人一人の持ち味が違い、秀でているところが違う」のが私たちの強みだと思っています。時には負担が偏ることもありますが、持ち味の違う四人が最後には足並みを揃えることで調和していけるグループでありたいと思います。この三年間、依頼をただ待つのではなく、活動の場を求めて足を運んでお話を聞いて頂いたり、ホームページ等で積極的に情報を発信したりといったことを心掛けてきました。演奏会を行っている施設を見つけて、電話で直接交渉したこともあります。こうして培ってきた多くの方々との

ご縁を大切に、今後さらに発展できると信じて活動していきたいと思っています。

今後の予定としては、九月に日本盛酒蔵にて日本盛一三〇周年企画コンサートが、来年二月十六日（日）には、平成三十一年度西宮市協働事業（地域文化芸術振興部門）に採択された自主公演が控えています。後者は西宮市の児童館との連携企画で、市としても初めての試みとのことで、よい企画となるようがんばりたいと思います。

四年目に入った「アンサンブルくれよん」の活動を見守って頂ければ幸いです。

今後の活動

第十回 音で遊ぼう！

子どものための

音楽作りワークショップ

第十回「音で遊ぼう！子どものための音楽づくりワークショップ」を九月二十一日（土）に音楽館ホールで開催します（九時～十六時）。これは東京音楽大学との連携事業の一環として、英国ギルドホール音楽院修士課程「リーダーシップ・コース」修了生を講師に招いて、学生・卒業生及び一般人を対象とする「音楽づくりワークショップ特別研修」を九月十七日（火）から五日間実施し、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちを招いて行うものです。二〇〇七年にスタートしたこの取組も今回が十回目で、記念の缶バッジを配布する予定です。

今年はデッタ・ダンフォード

（英国人のフルート奏者）とナ

ターシャ・ジェラジンスキ（英国人のチェロ奏者）を三年振りにロンドンから招きます。二人ともその間に出産して、まだお子さんが小さいので、家族ぐるみで来日してくれます。そこで、九月十九日にはジョン・クロカットのバロック・ヴァイオリンの演奏会、九月二十日にはジョー・ウィルズによるドラム・ワークスも開催します。

老若男女を問わず誰もが持っているクリエイティブな力を音楽によって引き出し、ともに構築しながら音楽を生み出していくというワークショップの手法は、人間に秘められたクリエイティブな力に対する再発見と信頼をもたらしてくれます。関心のある方はぜひご参加ください。

子どものための

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」届け！音楽の魔法」（子どものためのコンサート・シリーズ）第五十四回）を十二月七日（土）に本学講堂で開催します（第一部十一時、第二部十五時半開演、各六十分開演、第一部は年齢制限なし、第二部は幼稚園年長以上対象）。

出演はアウトリーチ第十七期生を中心とする「アンサンブルそらいろ」の五名（声楽・草野舞、山下優子、ピアノ・向井千沙都、齊藤明日香、ヴァイオリン・宮下優花）です。

子どもたちに楽しく本格的な音楽を聴いてもらいたいという思いから、クリスマスの物語に合わせて、フランス、ドイツ、チェコなど七カ国の音楽を演奏します。スライドも活用し、会

場の子どもたちと歌を歌ったり、複数のメロディを組み合わせるアクティビティを盛り込んだりと意欲的なプログラムです。

演奏曲目には、ポール・デュカスの交響詩《魔法使いの弟子》（二台ピアノ）、オッフェンバック作曲のオペラ《ホフマン物語》からコロラトゥーラのアリア《オランピアの歌》などが予定されています。どうぞご期待ください。



子どものための

オルガン・コンサート

「子どものためのオルガン・コンサート」わたしもぼくもオルガン博士！」（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十五回）を二月八日（土）に本学講堂で開催します（十四時開演、六十分公演、三歳以上対象）。

出演は、若手オルガニストのホープ大木麻理（本学音楽学部非常勤講師）を中心に、音楽学部オルガン専攻生の四人が舞台に立ちます。米澤唯（四年生）、竹嶋南帆（三年生）、山田佳世子（三年生）、森友歌（一年生）とオルガン専攻生の揃い踏みとなります。

このコンサートは、「楽器の女王」と言われるパイプ・オルガンについて、お話と演奏と楽器体験を通して楽しく味わっても

らおうとするものです。音の鳴る仕組みや多彩な音色、その歴史や構造を楽しく学びます。

演奏曲目は、J. S. バッハ

《トッカータとフーガ》ニ短調 BWV 五五五より《トッカータ》、同じくバッハ《ブランデンブルク協奏曲》第三番、BWV 一〇四八より第一楽章（二台オルガンによるデュオ）、L. ボエルマン《ゴシック組曲》より《ノートルダム》の祈り、R. ロジャーズ《ドレミの歌》（近藤岳編曲によるペダル連弾）他の予定です。

オルガンはキリスト教主義で建てられた神戸女学院にとって最も大切な基幹楽器です。この機会にぜひ足をお運びください。



子どものための

コンサート・シリーズ

来場者三万人達成

本学音楽学部主催「子どものためのコンサート・シリーズ」が、第五十二回（二〇一八年十二月八日）「子どものためのクリスマス・コンサート」で来場者三万人を達成しました。このシリーズは二〇〇二年七月にスタートしたもので、第三十四回（二〇一二年七月七日）「子どものための七夕コンサート」の第一部で二万人を突破して以来、六年半でさらに一万人のお客様を迎えたことになりました。

例年通りであれば、第五十二回（昨冬のクリスマス）で三万人突破が確実でしたが、昨年六月の大阪北部地震の影響で学院から講堂の使用を禁じられ、第五十一回（昨夏の七夕）を音楽館ホールに変更するというハプニングがあり、席数の関係でお客様を三分の一に減らさざる

を得ませんでした。そのため三万人達成は第五十三回（今年の七夕）にずれ込むのではないかと考えていましたが、七夕に来れなかったという思いのお客様が多かったのか、第五十二回の申し込みが例年以上に伸びて、第二部で三万人目のお客様を迎えました（累計三〇、一五三人）。

これを記念して、ミニ団扇とチケット・ホルダーを作成しました（デザインはいずれもアウトリーチ・センターのスタッフ）。団扇はこの夏の七夕コンサートで子どもたちに配布し、チケット・ホルダーは、この六年半の出演者と関係者に感謝を込めてお贈りします。皆様、ありがとうございました。

（以上、四項目、アウトリーチ・センター長 津上智実）

♪ 今後の予定 ♪

◎アウトリーチ

2019 年 10 月 30 日(水) 西宮市立用海幼稚園
 2019 年 11 月 2 日(土) 医療法人社団佳生会 野木病院
 2019 年 11 月 7 日(木) 地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
 2019 年 11 月 14 日(木) 西宮市立子育て総合センター付属あおぞら幼稚園
 2019 年 11 月 21 日(木) 国立病院機構 兵庫中央病院
 2019 年 12 月 13 日(金) 雲雀丘学園小学校
 2020 年 3 月 4 日(水) 独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター

◎ワークショップ

「第 10 回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」

日時:2019 年 9 月 21 日(土) 9:30~16:00

場所:神戸女学院大学 音楽館ホール

講師:英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者

対象:小学生・中学生・高校生 先着 40 名

参加費:無料

応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第 54 回 子どものためのクリスマス・コンサート ～届け！音楽の魔法～」

日時:2019 年 12 月 7 日(土)

第 1 部 11:00 開演(年齢制限なし)

第 2 部 15:30 開演(幼稚園年長以上対象)

会場:神戸女学院講堂

出演:アンサンブルそらいろ

草野舞・山下優子(声楽)、向井千沙都・齊藤明日香(ピアノ)、宮下優花(ヴァイオリン)

入場料:大人 500 円、子ども 300 円

応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第 55 回 子どものためのスペシャル・コンサート ～わたしもぼくもオルガン博士！～」

日時:2020 年 2 月 8 日(土) 14:00 開演※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。

会場:神戸女学院講堂

出演:大木麻理(オルガニスト、本学音楽学部非常勤講師)、本学音楽学部オルガン専攻生

入場料:大人 1000 円、子ども(19 歳以下)500 円

応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にてききな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 小中学校へ:総合的学習支援プログラムとして、

子どものための楽しい体験学習を！

♪ 病院や美術館へ:催しの趣旨に沿った手作りの音楽

プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月～金 10:00～15:00)

〒662-8505 西宮市岡田山 4-1

TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551

E-mail:outreach@mail.kobe-u.ac.jp

http://www.kobe-u.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

後期もコンサートや実習が盛りだくさんです。皆さんを精一杯サポートさせていただきます！(丹野)

短い間でしたが充実した時間でした。ありがとうございました♪(神田)

今年の七夕コンサートは思いがけないハプニングが色々ありました。後期はどうなるでしょうか？(津上)